

企業概要

- 本社 佐賀県武雄市朝日町大字甘久3498-2
- 設立 1951年6月
- 資本金 1,000万円
- 代表者 代表取締役社長 馬渡 洋平
- 従業員数 82名
- 業種 建設業
- 事業内容
 - ・屋根瓦の販売、施工
 - ・コンクリート製品の製造、販売
 - ・エクステリア商品の販売、施工



脱炭素経営の背景とスローガン

■ 脱炭素経営のきっかけ・背景

業界を取り巻く環境が脱炭素に移行していると感じています。さらに令和元年、令和3年に大雨災害で被災し、気候リスクの低減のためにも自社から脱炭素に取り組む必要があると考えました。

社員の脱炭素意識を高めるために朝礼等にて脱炭素関連の社会動向を展開し、社内全体の機運向上にも取り組んでいます。

代表取締役社長 馬渡 洋平



■ GXスローガン

Sustainable Future
~地球に寄り添うものづくり~

このスローガンには、地域の更なる発展と負託に応えることのできる企業となるべくGXに取り組んでいこうという思いを込めています。

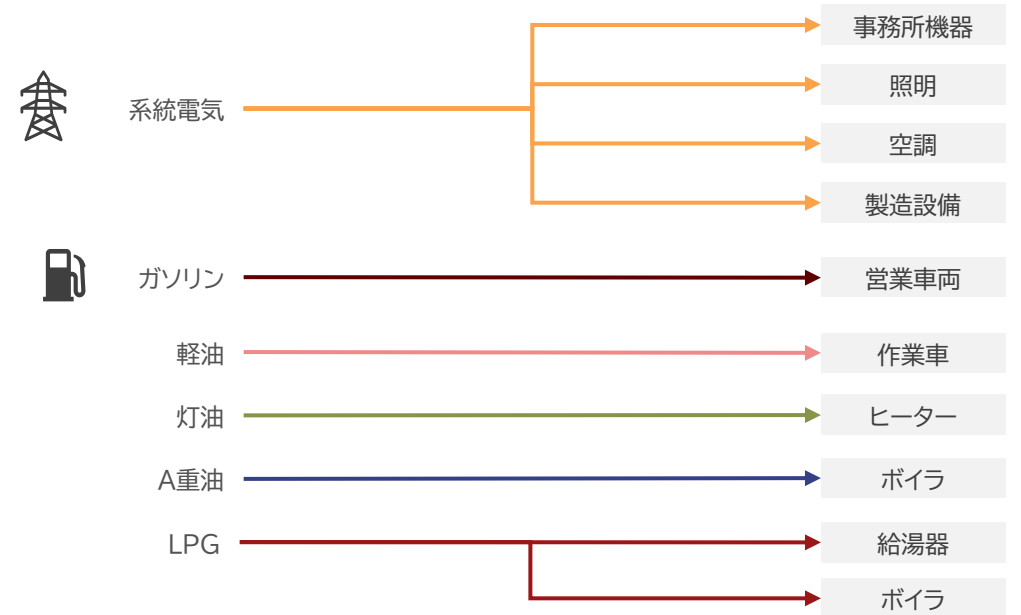
スローガンの策定は社内でのワークショップを通して行い、社員の環境意識向上や自社のGX方針に対する理解度向上の機会となりました。スローガンは社内に展開し、社員全員で地球に優しいものづくりを目指します。



エネルギー使用状況の可視化

■ エネルギーフロー図

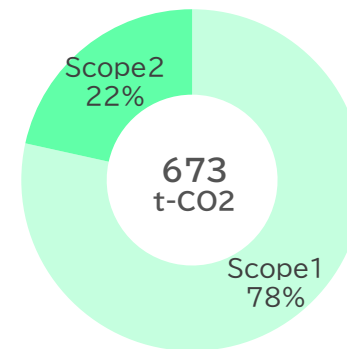
当社では、コンクリート製品の製造におけるボイラでのA重油の消費が多くなっています。このため重油ボイラのガスボイラ化を進めています。オフィス機器や照明空調、一部の製造機械等では電気も多く消費しています。



■ 自社排出量の内訳

2023年度の自社活動によって排出された温室効果ガス量の合計は673トンでした。これは、杉の木のCO2吸収量/年に換算すると47,783本分になります。

当社のGHG排出量内訳は、自社で使用する燃料由来のCO2排出量(Scope1)が528t-CO2、他社から供給された電気・熱使用由来のCO2排出量(Scope2)が145t-CO2でした。Scope1の中でも最も排出量が多かったのはボイラ運転のためのA重油の使用に伴う排出でした。



673 t-CO2 = 杉の木 47,783本が1年間で吸収するCO2量

部門	エネルギー種別	年間使用量	CO2排出量
Scope1	軽油	47.1 kL	122.2 t-CO2
	ガソリン	25 kL	57.8 t-CO2
	灯油	1.5 kL	3.8 t-CO2
	A重油	110.5 kL	300.3 t-CO2
Scope2	LPG	14.7 t	44.1 t-CO2
	電気	304.999 kWh	144.9 t-CO2
合計			673 t-CO2

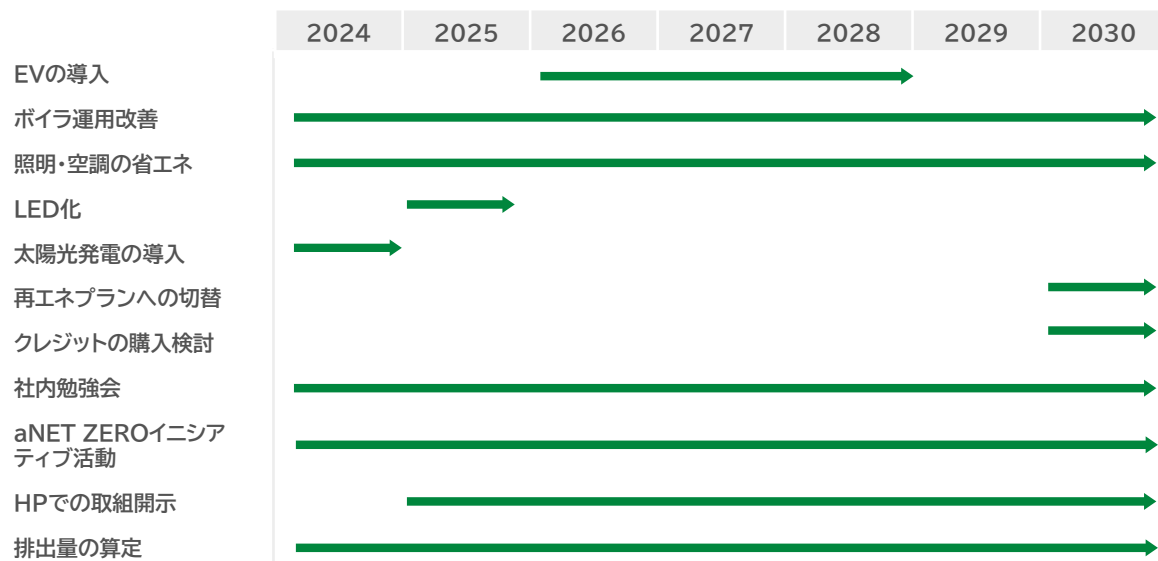
自社GHG排出量の削減に向けた取組

削減計画の策定

削減の流れ

電化 燃料転換	<ul style="list-style-type: none"> ガソリン車を順次EVへ切替を検討 ボイラの燃料転換(重油→LPG)を進める
省エネ	<ul style="list-style-type: none"> 水銀灯のLED化を完了 工場における運用改善や事務所における空調の温度管理など、省エネを徹底
再エネ化	<ul style="list-style-type: none"> 屋根上太陽光発電電力の自家消費を開始 電力再エネプランへの契約切り替えを検討
オフセット	<ul style="list-style-type: none"> クレジットの購入を検討

削減目標：2030年度までに42%削減(2023年度比)



実施施策のご紹介

LED化

省エネ余地に関して再度調査を行いました。蛍光灯や水銀灯が全拠点に残っているので、まずはLED化を進めていきたいと考えています。試算したところランニングコストは年間50万円、排出削減量は13t-CO2になることがわかりました。

EV導入

現在保有している車両情報からランニングコストを試算し、EV化による効果の高い車両を特定しました。費用対効果の良いものから順次EVに切り替え、再エネ電力で充電することにより排出量削減を図ります。

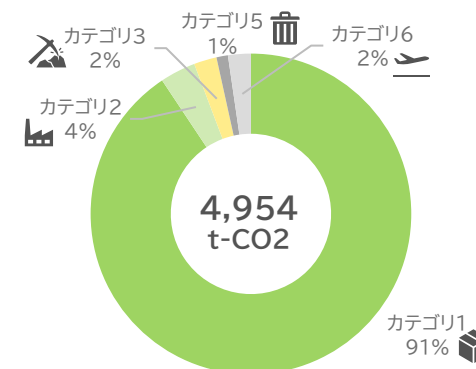
サプライチェーン全体での取組

サプライチェーン排出量の内訳

サプライチェーン全体のCO2排出量(Scope3)は、当該年度の算定対象範囲において4,954t-CO2でした。当社では、サプライチェーン排出量(Scope3)のカテゴリ1,2,3,5,6の算定に取り組んでいます。原材料などの購入品生産過程で出る排出量が最も多く、削減に向けてグリーン調達を行っています。

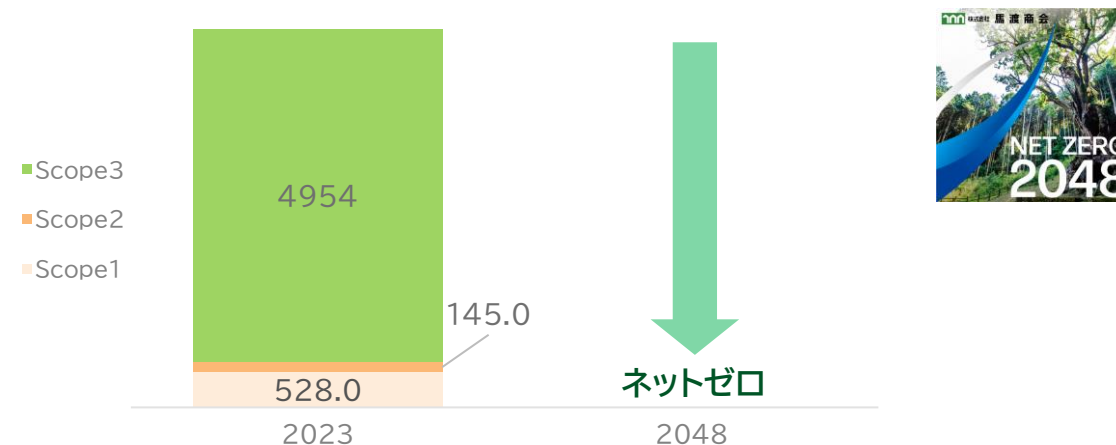
カテゴリ1	購入した製品・サービス	4,490 t-CO2
カテゴリ2	資本財	178 t-CO2
カテゴリ3	燃料・エネルギー関連活動	114 t-CO2
カテゴリ5	廃棄物	57 t-CO2
カテゴリ6	出張	114 t-CO2

Scope3内訳(2023年度)



ネットゼロ目標

aNET ZEROイニシアティブに加盟し、2048年ネットゼロを目標に掲げています。



ネットゼロに向けた取組

当社では、ネットゼロの達成に向けたScope3の削減の取組として、低炭素型コンクリートの開発導入、環境配慮型資材の利活用を積極的に行っています。

低炭素コンクリート (CarbonCure)

生コン1m3の単位セメント量に対し0.2~0.3%の液化CoO2を注入することで強度が上昇し、配合の見直しにより単位セメント量を約5%削減できる。

自然治癒コンクリート (Basilisk)

ひび割れを自己修復することで、RC造の目標耐用年数を普通品質の65年から高品質の100年に延ばすことが可能となり、建替え時のコンクリート供給で排出されるCO2が削減される。